

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [20134] LRG (ロイシンリッチ α 2グリコプロテイン)

受託開始日

- 令和2年2月3日(月)



LRG (ロイシンリッチ α 2グリコプロテイン)

研究検査項目として受託を開始するロイシンリッチ α 2グリコプロテイン (Leucine-rich alpha 2 glycoprotein ; LRG) は炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease ; IBD) の寛解期と活動期を反映することができる新しい血清バイオマーカーです。

IBDは原因が明らかにされていない慢性非特異性腸炎の総称で難病指定されており、潰瘍性大腸炎とクローン病に分類され、腹痛、下痢、血便などの症状を再燃と寛解を繰り返しながら慢性的に推移する炎症性疾患です。比較的若年に発症し、日本における患者数は21万人以上と推測されており、増加傾向にあると考えられています。

治療には近年の生物学的製剤の進歩により、炎症抑制に有効なTNF- α 阻害剤が開発され、ステロイド剤などと組み合わせることにより炎症の沈静化や再燃予防が可能になりました。しかしそのためには疾患活動性を適格に判断することが必要であり、侵襲性の高い内視鏡検査に頼らない炎症性マーカーの登場が待たれていました。

糞便を材料とするカルプロテクチンはIBDの診断補助 (糞便材料のため疾患特異性が高い) に、一方LRGはIBDの活動性判定やモニタリング (疾患非特異的だが、鋭敏な炎症マーカー) に有用とされています。

さらにLRGは、CRPとは異なる発現誘導を起こすとされることからCRP無応答例のIBDにおいても疾患活動性を反映し、適格な治療を行うために必要な活動期を把握するための補助的判断材料となり得ると考えられています。

検査要項

項目コード	20134
検査項目名	LRG (ロイシンリッチ α 2グリコプロテイン)
検体量	血清 0.4mL [容器番号: 01番]
保存方法	冷蔵
検査方法	LA (ラテックス凝集比濁法)
基準値*	16.0 μ g/mL 未満 (炎症性腸疾患の活動期の判定補助における参考基準値)
所要日数	3~8日
検査実施料	未収載
報告下限	5.0 μ g/mL 未満
報告上限	99999.9 μ g/mL 以上
報告桁数	小数1位、有効6桁
備考	* : 判定上の留意事項 感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。

参考文献

- 伊藤いづみ, 他 : 臨床栄養 135 (6) : 748-750, 2019.
飯田智哉, 他 : IBD Research 10 (4) : 212-217, 2016.